

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101343		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい黄瀬川	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市大岡266-9		
自己評価作成日	令和2年 7 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和2年 9 月 11 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 8 月 7 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階が小規模多機能ホーム、2階と3階がグループホームとなっております。グループで定められている「私たちの仕事の約束5か条」「私たちの介護の約束5か条」に沿った支援に努めております。

また、事業所の「笑顔がいつぱい なじみのわが家」という運営理念のもと、明るい雰囲気です利用者様が笑顔で過ごしていただけるよう心がけております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は幹線道路から離れ、閑静な住宅街に位置している。1階には小規模多機能ホームがあり、広いホールを利用し流しそうめんなどの行事、機械浴槽を利用し歩行状態が低下し事業所の浴室を利用できない利用者の入浴、送迎車を利用して外出行事を行うなど単独で開設している事業所と比べて活用できる資源が多い。管理者は職員に利用者笑顔で積極的に関わるように指導を行い、散歩の際に事業所に帰ると利用者から「わが家に帰った」と発言があるなど、運営理念が実現されている様子である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間の事業所方針にもとづき目標を掲げ取り組んでいます。申し送り時に復唱をし常に意識をもって業務を行っています。	運営理念の他「介護崩壊を防ぐために私たちが出来ること」～新型コロナウイルスを想定した新しい介護サービス様式～を年度事業方針として、感染症予防の研修実施や手技徹底のためチェック表などの作成を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や防災訓練へ参加したり、ご利用者と日常的に外出(散歩・買い物等)を通して、地域住民と交流しています。毎年、地域の秋祭りでは、施設前で太鼓の演奏をさせていただきます。	地域包括支援センターが主催する地域に向けての勉強会に参加し交流を図っている。会では地域の防災訓練の避難場所として事業所を利用することが議題に上るなど、地域での存在が認知されている表れが確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議等にその都度、状況や情報をお伝えしています。ご近所の方からのご相談も頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議を開催し、ご利用者の活動状況を報告しています。ご利用者家族様や地域包括からのご意見を参考にサービスの向上に努めております。	会議では事業所の状況に加えてヒヤリハット報告を行っている。令和2年度から新型コロナウイルス対策として、会議の開催ではなく事前に意見を聴取し報告書をまとめ家族や市の窓口へ提出する形式としている。	地域との関係を結ぶため地域の代表委員の会議参加が求められる。社会情勢や地域的特性はあるが開催方法の見直しなど参加が得られる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、沼津市介護相談員に訪問していただき意見交換をしています。2ヶ月おきに開催されるGH連絡協議会にて市担当者が参加時には情報交換を行っています。	運営推進会議の報告書や認定申請など、市担当者と顔を合わせる機会を積極的に作っている。これにより制度に対する質問や事故に対する対応法についてアドバイスを求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿ったケアを心掛け、申し送り時、会議等に色別(青・黄・赤)し、指導しています。3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開催し研修を行っております。	介護中の具体的な行為についてどのような行動が身体拘束やスピーチロックに当たるのかを色分けし可視化している。さらにマニュアルを作成し、行ってはいけない行動が一目で確認が出来る取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なアンケート、研修を行っています。会議では言葉遣いや支援の仕方を確認して防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に対象となる可能性があるご利用者様がいた為、本人のレベル、関係者や必要となることなど学ぶ機会があり、職員へ共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者様及び家族様に対して契約書、重要事項説明書を懇切、丁寧に説明を行い、その他の疑問点等にも応じるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見相を設直しております。運営推進会議にてご利用者様やご家族様の意見やご要望をお聞きしています。毎月の介護相談員の訪問により、ご利用者様からの意見を聞く機会を設け共有し取り入れております。面会時には、ご家族様とできるだけお話する機会を持ち、頂いたご要望については必要時、報告書を作成し、グループでの共有も行っています	面会時や電話連絡の際に、家族からの要望の聞き取りを行っている。また利用者からは日々の生活の中で聞取った意見を報告書として作成し、回覧を行う事で共有を図っている。家族からは利用者の個別の対応についての要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議や朝礼、終礼にて職員からの意見を聞いています。全体会議時には全職員で意見を出し合い、決定するようにしています。	各種会議や朝礼、終礼などの打合せ、個別面談を通じて随時管理者に意見を伝えることが出来る。最近では事業方針に対応した感染症対策として消毒を行う場所やチェックシートの変更に対する意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行い、個々の職員の現状の把握や健康管理にも注意を払い働きやすい環境作りに努めております。キャリアパス制度の導入をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度での人事考課、社内・社外研修への参加を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会や介護支援専門員連絡会に参加したり、地域包括支援センターが主催する勉強会や研修に参加し、交流する機会を作るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていることや不安なことを個別に聞き、家庭で生活していた頃と近い生活が出来るよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を利用するにあたり、家族様の不安や困っていること要望等をお聞きし、ご利用者様が安心して生活できるよう心がけています。面会時や電話でできるだけご家族のお話を伺い、安心して利用して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が窓口となり、必要なサービスのアドバイスが出来るような対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除、洗濯等の日常のことを、会話をしながら共に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子をお伝えしています。ご家族様も一緒に参加できる行事なども行い、可能なことは協力をしていただけるような関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や、面会は自由に行っていただき、職員とも買い物や外出に行っております。	入居前に馴染んでいた生活についてケアマネジャーや利用していたサービス事業所に聞き取りを行っている。花に水をやることを習慣にしていた利用者にプランターを用意し、その習慣の継続を図った事例が確認できた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性の把握に努め、職員が間に入り、良好な関係性を保ちながら生活できるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動した施設などへの訪問、入院の際のお見舞いや電話連絡を取り、相談や支援に努めております。施設、医療関係へ移られた場合はサマリー等で情報交換を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様やご家族の意向を伺い、毎月のミーティング時、カンファレンスを行っています。担当者により個々のご利用者様の把握に努め、誕生日には本人様の希望に沿った企画を立てております。	意向の把握は全職員が聞き取りを行うが利用者ごとに配置される担当職員が積極的に関わっている。把握した意向は報告書にまとめられ共有している。利用者が希望する介助が明かになり、対応を行った事例が確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から情報収集を行い、できるだけ今迄の暮らしに近い生活を送っていただけるよう支援しています。開始時の面談、相談の段階で生活歴を聞き、その人に合った支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察を行い、心身の状態や体調の変化時には職員間で情報提供し合い、把握に努めています。体調の変化は医療連携先へ報告しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にカンファレンスを行い、定期的に介護計画のモニタリングを実施し、見直しを行っています。家族や医療機関と情報共有を図っております。	月1回開催されるフロア会議で利用者の状態と計画の進捗を話し合い、その内容を基に計画を作成している。作成した計画は利用者ファイルに添付され、職員は内容を確認しながら必要な介護を展開している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に利用者の状態を詳細に記載しています。申し送り時、個々の記録を記入し、介護計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の把握に努め、その方のニーズに応じたサービスが提供できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族様や、友人、知人などのつながりを大切にしながら、外出などの支援も行ってまいります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談の段階で家族様に意向を聞き、家族様の希望に十分配慮しています。引き続きかかりつけ医を希望される利用者様については継続して受診しています。	全利用者が協力医の訪問診療を受けている。専門医への受診は家族が行う事を基本とし、必要性和希望に応じて職員による付き添いや送迎が有料で行われる。家族が付添いを行う際は、経過を記した報告書を発行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の24時間オンコール対応の実施と、施設巡回看護師への情報提供を行い、支持を仰ぎ適切な受診や対応に努めてまいります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心した環境で治療が出来るよう医療機関との情報交換を密に行い、関係者との関係作りを行い、早期の退院が出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明させていただき、ご本人や家族様の意思を尊重し、方針を共有できるようにしています。	昨年度の看取りはないが、年平均2～3ケースは行っている。看取りの際は個別のケースについて起こり得る状態を予測し、対応をマニュアル化している。さらにいつでも管理者とフロアリーダーに連絡が出来る体制を整備し、職員を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常にフローチャートを確認し、身に付け、実際にできるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、訓練も定期的に行ったり、地域の災害訓練にも参加し、連携を図っております。	風水害と火災を想定した訓練を年1回ずつ実施している。マニュアルやBCPは事業所独自で作成し、それに基づいた訓練の実施や改定が行われている。水と食料は7日分が定期的に法人本部から届き備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けをしている。申し送りの際にも、ご利用者の前で行わないように配慮しています。	利用者を「さん」付けで呼ぶ、排泄や入浴の際はタオルを掛けてドアを閉めるなどの対応を行っている。個人ファイルは背表紙に名前を付けず、外部から見えにくい場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニュー、飲み物、入浴、散歩等、声かけをし自己決定できるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、本人のペースで過ごしていただけるよう支援しています。その時の気持ちや体調に合わせて利用者様に無理のないような支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動理美容の訪問があり、本人の希望に応じていただいている。洋服選びも、本人の気持ちを尊重しながら一緒に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を伺い、体調面を配慮した食事を提供し、食事の準備や片づけは一緒に行っている。ご利用者からのリクエストにも可能な限りお応えし、食事が楽しいものとなるようにしています。	業者より決められたメニューで食材が配達され、事業所で調理している。利用者の希望を聞きながら焼き肉パーティーや流しソーメン等を行うことで楽しみを演出している。状態に応じて刻みやミキサー食の対応が可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により習慣に応じた食事量や栄養バランスを考慮し、水分補給に努めている。医療連携医の指示のもと、一人、ひとりの状態に合わせた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回の歯科医の往診や歯科衛生士によるブラッシングを実施し、毎食後の口腔ケアの促しやフォローを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、状態に応じ、見守りや不十分なところをサポートし対応しています。	排便排尿パターンを把握し、個々の状態に合わせてトイレ誘導を行っている。この際利用者が出来ない行為のみに支援を行う自立支援を大切にしている。誘導の際は直接的な声掛けは避け、周りに判らないように行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、水分、食事の内容を検討したり、適度な運動を促し、予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のペースでできるだけ希望に合わせてながら、楽しく入浴して頂けるよう、タイミングにも配慮しています。	毎日午前中に実施し、週2回以上の入浴体制としている。利用者の状態と当日の職員体制が整えば、希望により毎日や夜の入浴も可能である。身体状態に応じて小規模多機能ホームの機械浴の利用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調の把握に努め、その都度休息を促し、不安なく安心して休まれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬に携わっている。薬情をみて薬を理解し、安全な服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、できることでの役割を考え、楽しみごとを取り入れて気分転換を図りながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所を散歩したり、公園に出かけたり、車で外出も企画し、実施している。家族に参加して頂けるような行事も企画し、外に出掛けるようにしています。	事業所周辺は車の通りが少なく、近隣公園が散歩コースである。車での外出を積極的に行い、小規模多機能ホームや法人本部の車を活用し大人数の移動も対応可能である。現在は、新型コロナウイルスの影響で外出ができず、お好み焼きや焼き鳥などの調理レクや生け花など屋内での活動が主である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、食材や日用品など本人の希望の物を選んで買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の声が聞きたいとのご要望があるときは、直接お話していただいております。字が書ける方はご家族様宛にはがきを書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の整備を常に行い、清潔を心掛けている。安全に安心して過ごせるよう配慮している。季節に合った掲示物や花を飾り、居心地よく過ごせるように工夫しています。	利用者の動線上には物を置かないようにして安全を確保している。掃除は毎日利用者と共にやっている。新型コロナ対策として、手すりやドアノブなど利用者の触る部分の消毒や職員の手洗いうがい、1日3回の検温や面会の制限、換気などを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では家庭的な雰囲気を作り安心して過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、本人の使い慣れた家具や昔から使っていた馴染みの物を置き、本人が安心して居心地良く過ごせるように工夫をしています。	居室は5.5畳ほどの広さで、介護用ベッドやクローゼット、エアコンの備えがある。入居前の馴染みの物を自由に持ち込むことが可能で、タンスや鏡、仏壇、TV、化粧品、漫画などを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消、手すりの配置、ベッド柵を個々に合わせ配置している。車いすや歩行器の使用は十分可能なスペースを設けている。食器洗い等、安全面に配慮しながらできる支援を行っています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101343		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい黄瀬川	ユニット名	3F
所在地	静岡県沼津市大岡266-9		
自己評価作成日	令和2年 7 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和2年 9月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 8 月 7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階が小規模多機能ホーム、2階と3階がグループホームとなっております。グループで定められている「私たちの仕事の約束5か条」「私たちの介護の約束5か条」に沿った支援に努めております。また、事業所の「笑顔がいっぱい なじみのわが家」という運営理念のもと、明るい雰囲気です利用者様が笑顔で過ごしていただけるよう心がけております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間の事業所方針にもとづき目標を掲げ取り組んでいます。申し送り時に復唱をし常に意識をもって業務を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や防災訓練へ参加したり、ご利用者と日常的に外出(散歩・買い物等)を通して、地域住民と交流しています。毎年、地域の秋祭りでは、施設前で太鼓の演奏をさせていただきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議等にその都度、状況や情報をお伝えしています。ご近所の方からのご相談も頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議を開催し、ご利用者の活動状況を報告しています。ご利用者家族様や地域包括からのご意見を参考にサービスの向上に努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、沼津市介護相談員に訪問していただき意見交換をしています。2ヶ月おきに開催されるGH連絡協議会にて市担当者が参加時には情報交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿ったケアを心掛け、申し送り時、会議等に色別(青・黄・赤)し、指導しています。3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開催し研修を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なアンケート、研修を行っています。会議では言葉遣いや支援の仕方を確認して防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に対象となる可能性があるご利用者様がいた為、本人のレベル、関係者や必要となることなど学ぶ機会があり、職員へ共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者様及び家族様に対して契約書、重要事項説明書を懇切、丁寧に説明を行い、その他の疑問点等にも応じるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しております。運営推進会議にてご利用者様やご家族様の意見やご要望をお聞きしています。毎月の介護相談員の訪問により、ご利用者様からの意見を聞く機会を設け共有し取り入れております。面会時には、ご家族様とできるだけお話する機会を持ち、頂いたご要		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議や朝礼、終礼にて職員からの意見を聞いています。全体会議時には全職員で意見を出し合い、決定するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行い、個々の職員の現状の把握や健康管理にも注意を払い働きやすい環境作りに努めております。キャリアパス制度の導入をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度での人事考課、社内・社外研修への参加を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会や介護支援専門員連絡会に参加したり、地域包括支援センターが主催する勉強会や研修に参加し、交流する機会を作るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていることや不安なことを個別に聞き、家庭で生活していた頃と近い生活が出来るよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を利用するにめたり、家族様の不安や困っていること要望等をお聞きし、ご利用者様が安心して生活できるよう心がけています。面会時や電話でできるだけご家族のお話を伺い、安心して利用して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が窓口となり、必要なサービスのアドバイスが出来るような対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除、洗濯等の日常のことを、会話をしながら共に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子をお伝えしています。ご家族様も一緒に参加できる行事なども行い、可能なことは協力をしていただけるような関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や、面会は自由に行っていただき、職員とも買い物や外出に行っております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性の把握に努め、職員が間に入り、良好な関係性を保ちながら生活できるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動した施設などへの訪問、入院の際のお見舞いや電話連絡を取り、相談や支援に努めております。施設、医療関係へ移られた場合はサマリー等で情報交換を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様やご家族の意向を伺い、毎月のミーティング時、カンファレンスを行っています。担当者により個々のご利用者様の把握に努め、誕生日には本人様の希望に沿った企画を立てております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から情報収集を行い、できるだけ今迄の暮らしに近い生活を送っていただけるよう支援しています。開始時の面談、相談の段階で生活歴を聞き、その人に合った支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察を行い、心身の状態や体調の変化時には職員間で情報提供し合い、把握に努めています。体調の変化は医療連携先へ報告しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にカンファレンスを行い、定期的に介護計画のモニタリングを実施し、見直しを行っています。家族や医療機関と情報共有を図っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に利用者の状態を詳細に記載しています。申し送り時、個々の記録を記入し、介護計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の把握に努め、その方のニーズに応じたサービスが提供できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族様や、友人、知人などのつながりを大切にしながら、外出などの支援も行ってまいります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談の段階で家族様に意向を聞き、家族様の希望に十分配慮しています。引き続きかかりつけ医を希望される利用者様については継続して受診しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の24時間オンコール対応の実施と、施設巡回看護師への情報提供を行い、支持を仰ぎ適切な受診や対応に努めてまいります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が出来るよう医療機関との情報交換を密に行い、関係者との関係作りを行い、早期の退院が出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明させていただき、ご本人や家族様の意思を尊重し、方針を共有できるようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常にフローチャートを確認し、身に付け、実際にできるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、訓練も定期的に行ったり、地域の災害訓練にも参加し、連携を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けをしている。申し送りの際にも、ご利用者の前で行わないように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニュー、飲み物、入浴、散歩等、声かけをし自己決定できるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、本人のペースで過ごしていただけるよう支援しています。その時の気持ちや体調に合わせて利用者様に無理のないような支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動理美容の訪問があり、本人の希望に応じていただいている。洋服選びも、本人の気持ちを尊重しながら一緒に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を伺い、体調面を配慮した食事を提供し、食事の準備や片づけは一緒に行っている。ご利用者からのリクエストにも可能な限りお応えし、食事が楽しいものとなるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により習慣に応じた食事量や栄養バランスを考慮し、水分補給に努めている。医療連携医の指示のもと、一人、ひとりの状態に合わせた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回の歯科医の往診や歯科衛生士によるブラッシングを実施し、毎食後の口腔ケアの促しやフォローを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、状態に応じ、見守りや不十分なところをサポートし対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、水分、食事の内容を検討したり、適度な運動を促し、予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のペースでできるだけ希望に合わせてながら、楽しく入浴して頂けるよう、タイミングにも配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調の把握に努め、その都度休息を促し、不安なく安心して休まれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬に携わっている。薬情をみて薬を理解し、安全な服薬支援に努めてます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、できることでの役割を考え、楽しみごとを取り入れて気分転換を図りながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩したり、公園に出かけたり、車で外の外出も企画し、実施している。家族に参加して頂けるような行事も企画し、外に出掛けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、食材や日用品など本人の希望の物を選んで買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の声が聞きたいとのご要望があるときは、直接お話していただいております。字が書ける方はご家族様宛にはがきを書いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の整備を常に行い、清潔を心掛けている。安全に安心して過ごせるよう配慮している。季節に合った掲示物や花を飾り、居心地よく過ごせるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では家庭的な雰囲気を作り安心して過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、本人の使い慣れた家具や昔から使っていた馴染みの物を置き、本人が安心して居心地良く過ごせるように工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消、手すりの配置、ベッド柵を個々に合わせ配置している。車いすや歩行器の使用は十分可能なスペースを設けている。食器洗い等、安全面に配慮しながらできる支援を行っています。		